

社会福祉法人 真昌会 令和6年度事業報告

テーマ：身近な人こそ大切に

1. ご利用者様のこと

- ☆ 基本理念「ご利用者様をととても大切な人として位置付けた」ケアに取り組む
 - ⇒ 各部門でクレドを読み合わせをするなど、意識的に取り組んだ
- ☆ 基本理念に立ち返ることのできるような職員研修を実施する
 - ⇒ 職員会議等を用いて、伝達には努めたが、職員研修の実施はできなかった

2. 職員のこと

- ☆ 大切な職員が働きやすい職場環境を整え（新システム・相談しやすい環境等）、待遇改善を図る
 - ⇒ 新システムが働きやすい職場環境構築の一助となった部門もあれば、そうではない部門もあるので、一概に達成できたとは言い難い。相談しやすい環境の構築のために顧問に全職員の個人面談を行うなど一定の成果は得られた。待遇改善については、一定の昇給等を行っているが、社会の物価高騰の状況を鑑みれば、十分とも言えない状況
- ☆ クレド9「お互いに感謝と尊敬の念を忘れません」の通り「ありがとう」を伝え合いチームワークを醸成する
 - ⇒ 意識的に取り組んだが、十分とは言えず、できた部門と出来なかった部門に分かれる
- ☆ お互いのことをより知るための「自分のトリセツ」研修等に取り組み、信頼関係を深め、思っていることは‘素直に’ありのままを‘伝えられるようにしていく’
 - ⇒ 意識的に取り組んだが、十分とは言えず、「自分のトリセツ」もできなかった

3. 目標のこと

- ✧ 年度の目標を達成するために毎月の目標を立てる
 - ⇒ 概ね取り組めた
- ✧ 毎月の目標を達成するために毎日の目標を立てて楽しく取り組む
 - ⇒ 一部の部門のみ取り組めた
- ✧ 目標達成ができたならお祝いをしてみんなで歡ぶ
 - ⇒ 年に一回ではあったができた

4. 経営のこと

- ✧ 新規利用者確保のために広報・宣伝活動に力を入れる
 - ⇒ インスタに取り組んでいる部門数も増え、ホームページ等も含め、前年より広報・宣伝活動に取り組めた
- ✧ 稼働率向上のためご利用者の体調管理を徹底する
 - ⇒ ご利用者様の体調管理の徹底を図ったが、波の管理にまでは至れなかった
- ✧ 株式会社トップケアから事業譲渡を受けるために取り組む
 - ⇒ 株式会社トップケアからすべての介護事業の承継を受けることができた

令和6年度 事業計画報告

【 特別養護老人ホーム 上牧の郷 】

<数値目標>

1. 実稼働率 98%目指します
2. 職員定着率 90%を目指す

<報告>

1. 実稼働率 96.4%で達成できませんでした。
原因として、入居者様の長期の入院が多かった。
医療（吸引、点滴）などの必要な入居者様の退去の時期が重なり
新入居までの時間がかかった為。
2. 職員の退職者は5名で、達成できませんでした。
5名の内、2名は試用期間中に退職。

<行動目標>

1. 基本理念に立ち返り「ご利用者様をととても大切な人として位置付けた」ケアに取り組む。
2. その人らしい生活を支援するため、ユニットケアに取り組む
3. 目標（特養全体 各ユニット）を明確にし共有化を図る。

<報告>

ユニットケアとして、居室担当を中心に入居者様、ご家族様に寄り添ったレクリエーション（外出、外泊）をすることが出来た。

お誕生日にご家族様、職員も同席させていただき外食できたこと。

看取りの方の食事を考えて少しでも食べていただけるようにしたこと。

コロナ依頼、特養全体でお花見に行けたこと。

入居者様の笑顔をたくさんのインスタグラムにあげさせていただき、周りの反響も大きかったこと。

ただ、介護事故も多い年（4件）でした。入居様に辛い思いをさせてしまいました。

事故が起こるたびに、リスク委員会やユニット会議で話をしております。

介助方法の見直しをしながら、事故が起こらないようにしていきたいとおもっています。

令和 6 年度 事業報告

【 上牧の郷 グループホーム 】

<数値目標>

2. 実稼働率 99.0%を目指す
3. 職員定着率 100%を目指す
4. 職員一人当たり 1 月に 1 件、見過ごしているヒヤリハットに気づく

<報告>

1. 稼働率 99.8%で達成できた。
年度末に看取りがあったが、すぐの新規対応で入居する事ができた。
2. 達成できなかった。
なかなか定着する事ができなく、苦戦している。
3. 前半は職員の意識もあったが、後半はなかなか報告が上がってこない現状があった。

<行動目標>

1. 認知症介護のプロとして、全職員が標準的な認知症ケアを行えるようにする
2. ご利用者様が生きて良かったと思える、楽しみのある生活に取り組む
3. 職員同士が家族のように助け合う暖かい空間づくりを目指す

<報告>

令和 6 年度は人員の入れ替わりがあり、職員が定着する事が難しい 1 年でもあった。利用者様の日々の楽しみ等は月 2 回の食事レクリエーションで、1 人 1 人の好きな物を調理し、笑顔で職員と食事作りを行い、食欲が落ちている方に対して、出来るだけ食して頂けるように職員一同案を出し合って対応を行った。この 1 年で看取りが 2 回あり、1 名は 7 年 5 か月 101 歳を迎えられ家族様からも感謝の手紙を頂いた。もう 1 名は体調が悪化する中のタイミングでずっと願っていた故郷の神戸に職員と車椅子で出かけられた経緯がある。職員もとても良い思い出になった一つの経験だったと思う。日々の忙しい中で 1 人 1 人の願望を現実におこなった事は今後も続けていきたいと思う。令和 6 年の行動目標は職員一同頑張っていけたと思う。

令和 6 年度 事業報告

【 看護付小規模多機能ホーム 上牧の郷 】

<数値目標>

6. 登録者数を 23 名以上にする
7. 職員定着率 90 %を目指す

<報告>

1. 登録者数 23 名を達成しました

4 月は登録者数が 18 名でしたが、少しずつ登録者が増え、1 月と 2 月は 23 名の登録がありました 紹介元は地域包括支援センターや病院、地域の方など多岐にわたっています

医療、福祉サービスとの連携、地域住民との交流、入退院時の支援等、広範囲に地道な営業活動を行い、特に退院時に病院からご自宅へ繋げるパイプ役を果たすことが出来ました

2. 職員定着率は 94 %と達成しました

働きがいのある職場、働きやすい職場にするためにお互い注意できる関係性を確立し、感謝の気持ちを伝える習慣を身につけました 退職者はパート職員 1 名でした

<行動目標>

4. 職員一人一人の資質向上を図り、ご利用者様へ最高のサービスを提供する
5. より良いサービス提供のため、職員全体のチームワークの構築を図る
6. ご利用者様の笑顔のために、何ができるかを常に考え行動する

<報告>

- ・ 3 人の職員が実務者研修を修了、また法定のオンライン研修は全員受講しました
- ・ 毎月の職員会議では異なる職種、お互いの知識や経験からしっかり話し合うことで、より良いサービスにつなぐことが出来ました
- ・ 日々の朝礼、終礼で目標の共有をし、実践と振り返りを通じて事故の防止に繋がりました

- ・家族を招いての誕生日会、こども園の園児たちとの交流、アニマルセラピーや外食、落語会等を行い外出や創作など新しいチャレンジをして、活動量が増え、ご利用者の笑顔に繋がりました
- ・ご利用者に合わせた個別ケアや日常動作訓練を多職種で積極的に取り組み、意欲や動作の向上が見られ、在宅で安心して生活ができるとご本人やご家族に喜んでいただきました
- ・ICT化の取り組みを、業務の見直しの機会ととらえ、改善に向けての職員の意識が高まりました

令和6年度 事業計画報告

【 上牧の郷デイサービスセンター 】

<数値目標>

1. 利用稼働率 平均88%を目指す
2. 職員定着率100%を目指す

<報告>

1. 利用稼働率 平均92% 達成できた。

新規利用の相談は断る事なく、週1回は確定できるよう、またショート等で空いている曜日に関して案内を行った結果、稼働率も高くなった。

2. 職員定着率 100% 達成できた。

情報の共有を行い、利用者様の対応やレクリエーションの事等 なんでも話し合える雰囲気作りを行った。また定期的に面談・職員会議等で自由に自分の考え等を話せる場の提供も行う事が出来た。

<行動目標>

1. ご利用者様・ご家族様に選ばれるデイサービスを目指す
2. 笑顔で明るい対応を徹底し、ご利用者様・ご家族様との信頼関係を深めていく
3. 職員一人一人の目標を明確にし、ケアの質の向上を目指す

<報告>

令和6年度は、新規相談等は断わる事なく、ショート枠等を利用して週1日は固定を提案し受け入れる事に徹底した。特に入所を考えている利用者様のショート利用増回や家族様の状態をみて予想を立てながら上手く空きが少なくなるように考えた。その結果 年間平均92%が維持できた。また職員一同で上牧の郷デイサービスの雰囲気作りや、利用者様の事を考えたレクリエーション等の対応をがんばった成果だと思う。どの利用者様にもスポットがあたるように、イベント等にも積極的に行う事もでき、9月に認知症啓発活動のイベントを、12月是他事業所の認知症デイサービスと共同で、安満遺跡公園にてクリスマス会を行う。日々の音楽活動で、いろいろなイベントに参加する事で、上牧の郷の取り組みを見てもらえる機会を作り、家族様には喜んで頂けた。またいろいろな人とのつながりや、新規相談にも繋がっている。昨年度を振り返ると、大変だったが、利用者様と同じ目標に向かって音楽活動を行った結果 利用者様だけではなく、職員も笑顔になり、やりがいに繋がっていると実感している。